

新川西中学校だより

令和2年度9月号

9月7日(月)発行

通算371号

新川西中HP

<http://www.shinkawanishi-j.sapporo-c.ed.jp>

2学期始業式にて

校長 渡部 浩士

また、こうして皆さんの元気な笑顔に会うことができ、また今年度初めて一堂に会して2学期を迎えることができ、とてもうれしく思っています。～中略～

さて、1学期の終業式で私は皆さんにひとつ宿題を出しました。それは、「普通って何だろうか」というものでした。考えてくれましたか。今年は特に、普通の学校生活に戻りたいと思っていた人も多かろうと思いますから、普通であるということの大切さを感じているかもしれません。ですが、今日は通常という意味の普通ではなく、人について考えてみたいと思います。

辞書を引くと「普通:広く一般に通じていること。世の常。なみ。」とあります。つまり、他から飛び抜けて差がないこと。というようなことになります。このことについて改めて考えると、私たちは二面性を持っていると思うのです。一つは「普通には見られたくない」という気持ち。独創性やオリジナリティ、個性を重視する価値観です。誰もどこかで自分がオンリーワンでいたいと考えます。「私の私らしさを理解してほしい」と思っていると思います。ところがもう一つは「普通でいたい」という気持ちです。人から特別な人と見られたくない。みんなと一緒になら安心だという気持ちになります。もしかしたら、国民性なのか、私たちが流行に影響されやすいのは、流行(はやり)に乗っていれば安心という心理があるのかもしれませんが。誰もこの相反する二つを両面持っていると言えましょう。皆さんはどちらが強いですか。

ところで、なかなかなくなるのが「いじめ」です。「いじめ」は今や社会問題とされています。皆さんの周りにはありませんか。この「いじめ」が発覚したとき、いじめた人に聞くと、いじめられた人に対して「だって、あいつは普通じゃないから。いじめられても仕方ないんだ。」と言います。果たしてそうでしょうか。では、普通の人ってどこの誰なんでしょうか。もしいたら連れてきてほしいと思うのです。なぜなら、誰にも長所も短所もあるし、得意不得意もある。個性も様々ですし、生き立ちもいろいろです。世の中には全く同じ人は一人もいないのです。ならば、**普通はないはず**です。普通の人はいません。「あいつは普通じゃない」と発言する人も「普通ではない」のです。だから、いじめを正当化する理由などないのです。

毎年夏休み明けのこの1か月間は、「子どもの命の大切さを見つめ直す月間」とされています。他人のことを大切に、気持ちをわかり合い、みんなが尊重し合うことを目指します。また、自分のかけがえのないのちも大切にしましょう。自分が困っているときはもちろんですし、他人が困っている、困っているかも知れない時には是非知らせてください。困ったときには、必ず助けてくれる仲間がいる。新川西中学校はそんな学校でありたいと思います。

皆さんの身の回りにもきっと楽しいことばかりではなく、多くの悩みや不安、ストレスなどもあることでしょう。ですがそこから逃げたい気持ちで命を軽んずるようなことがあってはいけません。人は誰であっても尊重されるものであるし、必ず支えてくれる人はいるものです。命はたったひとつです。

話を戻しますが、1学期は普通ではない日々でした。しかし、そうやって過ぎてきた時間も大切な一つ一つの時間でした。その時にしか経験できなかった貴重な時間とも言えましょう。普通ではないからこそ得られるものもあったのかもしれないのです。

今日から2学期。多くの場面で皆さんの笑顔に出会えることをたいへん楽しみにしています。以上で2学期始業式の話が終わります。

一学期、夏休みの反省と二学期に向けて

生徒代表3-1 中 マイ子

一学期、中学校生活最後のクラスだと、胸を高鳴らせていた矢先の休校。朝「眠いな」なんて言いながら朝練に励んでいたこと、ワークラウンジでたくさんの友達と話し笑い合うこと。「自粛してください。」そんな一言で私たちの生活にあったはずの当たり前が当たり前ではなくなりました。本当はあったはずの中体連も、合唱コンクールも。言い始めるときがありません。もしコロナウィルスがなかったら…そう考える人がたくさんいることでしょう。それでも私は、この事がきっかけで、考え方が変わりました。それは無いこと、できないことを見るより、あることやそのおかげでできることを見る。そんな考えをコロナウィルスのおかげで見つけることができました。自分が何気なくやっていることも、誰かにとっては特別でかけがえのないもの。学べることの大切さや、先生方に教えていただけることがどれだけ幸せなことかに気づくことができました。最近教えてもらった素敵な考え方を1つ、紹介したいと思います。みなさんも経験があるのではないのでしょうか。食べられないもの、できないあるいはしたことがないものを言うと「それ人生損しているね。」と言ったことや言われたことはありませんか。でもこれを損ではなく得に変えると、「私が人生得しているね。」という言葉に変わります。こんな風に誰かにとっては悪く見えることでも、違う目線でとらえることで素晴らしい考え方になる、と言うことを忘れずこれから先も活かしていきたいなと思います。

次は勉強についてです。これは、できたことできなかったことがあります。できたことはきちんと計画を立ててできたこと。これはこれから学力テストA、B、C、そして受験が控える私にとってはとても大きな力だと思います。できなかったことは、その計画に細かく、何をするか書かなかったことで迷ってしまい、数分の積み重ねが、無駄な時間を作ってしまったので、二学期からは、何をやるかを明確にし、後悔がないよう頑張っていきたいと思います。

中体連の代わりとなる大会は、たくさんの反省と、うれしい結果と、今まで積み重ねて得たものを見ることができたのではないかなと思いました。何か一つでも部活を通じて、誰かに伝えられていると良いなと思います。

とても中身の濃い一学期と夏休みを過ごせたと感じています。私に反省をするという機会をいただけたことも全て、私の未来に必ず活きます。小さな事も大切に、この反省を活かし、二学期、精一杯頑張っていきたいと思います。

学校祭に向けて 生徒会担当 三口恵李

10月30日(金)に開催される第34回学校祭に向けての活動が7月から始まりました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、多くの制限がある中での学校祭準備、学校祭となっています。今後の状況次第では、開催できるかどうかはわかりません。しかし、当初予定されていた合唱コンクールが中止となり、今年度全校生徒で行う唯一の生徒会行事となりますので、引き続き感染予防に努め、無事に開催できることを願うばかりです。



今回のテーマは生徒会執行委員で考案し、全校生徒の投票によって「虹～心を繋げる奇跡の架橋～」に、シンボルマークは3年5組 高田ことはさんのデザインに決まりました。この大きな行事を通して、学級の仲間たちと心を繋ぎ、絆を深め、学校全体に大きな感動の橋が架かることを期待し、準備を進めていきたいです。

また、今年度は感染リスクを考慮し、バザーを中止に、保護者の方々や地域の方々の観覧をご遠慮させていただくこととなりました。毎年楽しみにしていたバザーや、当日の保護者の方々の応援がなくなってしまう、生徒も教職員一同も残念に思っております。そんな状況下ではありますが、ご家庭でも学校での様子を聞いていただき、何か気になることがあれば学校までお問い合わせください。この学校祭が、教職員と生徒、保護者の方々と心が繋がる行事となりますよう、ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

